

令和6年度 学校評価について（ご報告）

本年度の学校評価について、結果と考察を報告いたします。

アンケートは、令和6年12月に、児童・保護者を対象に行いました。

※数値は、今年度のアンケート結果の肯定的意見。（ ）内は昨年度の数値。

1 学校が楽しい！

学校スローガン「明るく きらきら 伸びる子 輝く みんな 明神」の達成のため、職員一丸となってチーム明神として、日々の教育に取り組んできました。

保護者⑳「学校スローガンを知っている」74.6%（51%）
児童㉑「学校が楽しい、楽しんで行っている」80.9%（77%）
保護者㉒「児童は、楽しんで学校に行っている」91.3%（89.4%）

運動会で、幼小全員で学校スローガンを「明神コール」として唱和したり、学校通信でそのねらい、想いを伝えるなどしたため、今年度は保護者の皆様の認知も進みました。

「学校が楽しい」という肯定的な意見が、児童が8割、保護者は9割を超えることができました。今後、この結果がさらに伸びるよう、課題を一つ一つ改善し、児童たちが安心して楽しいと思える学校、保護者の方が児童を安心して通わせることができる学校づくりにさらに取り組んでまいります。

2 人権意識と自己有用感の育成

今年度は、鳴門市人権教育研究大会の大会校として、人権教育に取り組んできました。

研究主題「自分や仲間を大切にし、自他の人権を尊重する児童の育成

～自己有用感を高める、互いを認め合う仲間づくりを通して～

(1) 「自己有用感」について

児童㉓「自分には、よいところがある」81.5%（75.8%）
児童㉔「自分は人の役に立つことができる」74.5%（75.2%）
児童㉕「先生は、勉強や運動、生活でがんばったときほめてくれる」89.4%（88.2）
保護者㉖「児童は、自分のいいところを理解している」74.6%（71.6%）

これらは昨年度よりいずれも伸びました。各学級で「いいところ探し」をしたり、学校全体で「ありがとうカード」の掲示をする、ポジティブな行動支援（PBS）の取組などの実践が実を結びつつあります。今後さらに集会、行事、異学年交流の取組など自主的自治的な

活動を取り入れ、ポジティブな行動支援（PBS）の取組も継続しながら、児童の自己有用感を高めていきます。

(2) 「人権意識」「仲間づくり」について

児童⑳「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」96.4% (97.5%)
児童㉑「友達と仲よく生活している」92.2% (92.5%)
保護者⑭「児童は、人のことを大切にしてお友達と仲よくしている」94.5% (90.7)
児童㉒「先生は、困ったり、悩んだりしたときに、相談にのる」85.1% (83.9%)
保護者⑳「学校はいじめや生徒指導の問題に素早く対応してくれる」79.4% (79.4)

児童の人権意識については100%を目指して、「いじめは絶対に許さない」という姿勢のもと、人権学習や日頃の指導を継続します。児童の「友達と仲よく生活」の項目は 昨年と同率だが、保護者の項目は、昨年度よりも伸びました。幼小中一貫教育のめあてとして「じぶん」「なかま」を大切にすること、児童の実態や課題に応じ、自己肯定感の高まりを基盤にした仲間づくりに取り組んできました。児童や保護者の声に耳を傾け、情報共有、組織的な早期対応・解決にも努めています。日々の取組が成果として徐々に現れてきています。今後も児童が確かな人権感覚と実践力を身に付けられるよう、各学年で、人権学習や日頃の指導を継続して行っていきます。

3 基本的な生活習慣の育成

(1) 「あいさつ」について

幼小中一貫教育であいさつを大切にすることを目標に、発達段階に合わせた取組を継続して行い、今年度も中学生と「瀬戸っ子スマイルあいさつ運動」を実施しています。

児童⑯「先生、友達、近所の人に進んであいさつをしている」78.7% (77%)
保護者⑬「児童は進んであいさつをしている」65.9% (71.6%)

自分から元気に気持ちのよいあいさつができるよう、さらなる取組をしていきます。

(2) 「規範意識」について

児童㉓「学校のきまりを守っている」81.6% (91.3%)
保護者⑫「児童はルールを守る意識が育っている」89.7% (88.6%)

一定の規範意識が身についているものの、学年差や個人差を埋める必要があります。

(3) 「生活リズム」について

児童⑮「朝は、決まった時間に起きている」70.9% (67.7%)

昨年度よりも伸びています。ご家庭との連携を今後も図ってまいります。

(4) 「体力づくり」について

児童④「進んで運動し、体力づくりをしている」78.8% (78.9%)

保護者④「学校は、児童の体力づくりに熱心に取り組んでいる」81.8% (80.7%)

元気っ子タイム、体操発表会、水泳・陸上記録会の練習や外遊びを奨励しています。今後も、様々な運動を楽しみ、達成感や充実感をもてるよう、取組を継続していきます。

4 学力の向上

(1) 「学校での学習」について

児童①「先生は、毎日の授業を分かりやすく教えてくれる」95.0% (93.1%)

児童②「漢字や計算の力がついてきている」85.8% (83.3%)

児童③「テストでは、思い通りの点数が取れている」68.8% (64.0%)

児童⑤「授業中、人の話を集中して聞いている」78.7% (79.5%)

児童⑦「グループで調べたり、話し合ったりする学習が好きである」73.8% (76.4)

児童⑧「テレビやタブレットを使った学習が好きである」85.8% (82.6%)

保護者①「児童は、学校の勉強に意欲的に取り組んでいる」69.9% (77.3%)

保護者③「学校は、基礎的な学力定着に熱心に取り組んでいる」84.9% (83.7%)

保護者⑤「学校は、児童の学習規律の定着に熱心に取り組んでいる」84.1% (82.9)

本校では、一昨年度より算数科の授業方法の改善を中心に研究・実践を深めてきました。また、鳴門市が導入したタブレットを使用したAIドリルも、朝の学習を中心に活用しています。今年度、「先生は、毎日の授業を分かりやすく教えてくれる」が昨年よりものびていることをはじめ、「学校での学習」についてのびている項目が多くなっています。視覚的な支援を授業の中で意識する、PBSの手法を用いるなど、日々の職員の取組が一定の成果をあげていると考えます。聞き方や話し方のポイントを低学年から積み上げて指導する、児童が思わず話し合いたくなるような課題を設定するなど改善していく中で、児童の学力がさらに伸びるよう努めます。

(2) 「家庭での学習」について

児童⑥「宿題をきちんとしている。」90.1% (90.3%)
保護者⑥「児童は、家庭学習(宿題)をきちんとしている」86.6% (87.9%)

児童の意識として、真面目に宿題をしている意識がありますが、保護者の意識としては下がっています。今後、児童の意欲を高め、自主的に家庭学習ができるよう改善していきます。

5 主体性・粘り強さ

児童⑬「自分の判断で、行動するようにしている」71.7% (77%)
保護者⑪「子どもは、自分の身の周りのことを自分でしている」71.5% (73.8%)
児童⑰「学級の係や当番の仕事、掃除などに積極的に取り組んでいる」83.7% (84.5)
児童⑱「学級・学校の一員として、考えて行動している」70.7% (78.1%)
児童⑫「物事がうまくいかない時、ねばり強くがんばり続けることができる」
80.1% (73.9%)

上記のように、児童の主体性に関する項目が、昨年よりも下がっています。きめ細かい丁寧な指導・支援をしてきたことが、児童の指示待ちや受け身な面に現れていると考えます。主体的な児童の育成をめざし、教師主導から、児童主体の活動への転換を図る必要があると考えます。その際、児童の粘り強さがのびていることを生かしていきます。

6 ふるさと

児童⑲ 地域の行事などに参加している。 70.2% (59.6%)
児童⑳ 自分の住んでいる地域に愛着を持っている。 87.2%
保護者㉔ 子どもは、地域のお祭りや行事に積極的に参加している。77.8% (80.2)

積極的に地域に関心を持つ児童の割合が大幅に増えました。地域の方々のご協力もあり、継続的な地域学習が実を結んでいます。一方保護者のアンケートでは、地域に根ざした家庭の減少に伴い、地域行事への関心が希薄になりつつあります。地域学習を継続して行い、地域への関心を高められるような教育に取り組んでいきたいと思えます。

【学校関係者評価委員会のご意見より】

学校関係者評価委員会（学校運営協議会）の皆様にも、上記の結果を報告し、ご意見をいただきました。主なご意見を紹介します。

児童⑱「学級・学校の一員として、考えて行動している」70.7%（78.1%）

自分がしていることが役に立っている実感が少ないのではないかと。自分がしていること、係りの仕事、掃除などが、役に立っていることを、児童に積極的に具体的に伝えてはどうか。だれかの役に立っている実感が、高い自己有用感につながる。

中学生は、幼小中の交流による、絵本の読み聞かせなどの活動で、人のために役立っているという実感を得ている。幼小中連携によるつながりの中での教育はできている。

児童⑳「先生、友だち、近所の人に進んであいさつをしている」78.7%（77%）

スクールバスに乗っている児童が、会ったときに進んで会釈をしてくれる。

地域の方とのあいさつには、地域の方が誘拐への警戒などで、児童に声をかけにくい社会情勢もある。顔見知りになるなど、地域の方とのつながり、信頼関係をつくることも必要だと思う。

児童㉑「自分の判断で、行動するようにしている」71.7%（77%）

小学校でしてきたことが、中学校で生きて、主体性が高まっていることも感じる。小学校でしていることは、後々に生きている。

家庭でも、忙しさの中で、つい指示をしたり、やってあげたりということがあつた。主体性を育てることは難しいとは思つたが、子どもがすることを待つことなどを通して、家庭でも育てていかなければならないと考える。

児童㉒「本や新聞などをよく読んでいる」50.7%（64.4%）

低学年からの読書習慣を根付かせ、継続させることをお願いしたい。文字を読むこと、本を読むことで、想像力が育てられ、相手の気持ちを考えることもできる。

以上、今年度の結果と考察、学校関係者評価委員会からいただいたご意見をもとに、今年度よかつた結果がさらに伸びるよう、浮かび上がった課題が改善できるよう、努めます。そして、今後とも、子どもたちが安心して楽しいと思える学校、保護者の皆様が、子どもを安心して通わせることができる学校づくりに、教職員一同邁進してまいります。

今後とも、ご理解・ご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。